

最適な進路選択のために

昨日、某高校のパンフレットが届きました。早速、今朝三年生に配付され、生徒たちは興味深そうに見ていました。これから他の高校のものもどんどん届きます。お目当ての高校のものと、そうでないものとが手に入りますが、高校とはどういうところなのかを理解するために、全てのパンフレットにしっかりと目を通してほしいものです。

高校と中学校の違いはたくさんあります。最も大きな違いは「義務教育ではない」ということでしよう。「そんなことわかってるよ」という声が聞こえてきそうですね。しかし、全てはそこから始まっています。義務教育ではないということは、進学を志す人の意思が大きく関係するということです。

これが高校側にとって、ゆゆしき現実を生み出します。それは、「定員割れするかどうか」です。受験生にとって定員割れは安心材料になるかもしれませんが。しかし、高校側にとってはその真逆。不安材料にしかありません。定員割れないように高校はそれぞれの学校の特徴を明確にし、中学生や保護者にアピールをします。その手立ての一つがパンフレットです。

公立と私立、普通高校と専門高校、全日制と定時制と通信制など、中学校にはなかった分類や特徴があります。それを知らずして、点数や評判、制服や部活動だけの一側面だけで判断するのは、大変もったいない気がします。ましてや、「自分の入れるところ」というような、消極的悲観的な進路選択では、中学卒業後の生活が張り合いのないものになってしまいます。

また、普通高校と言っても、全て同じではありません。高卒後の進学が共通の目指すところですが、どのような方法でその実現を目指しているかは高校ごとに違います。私は高校の校長と会う機会が多いので、その点については詳しくうかがっています。パンフレットにも載っていますので、それを熟読してくださいね。

私は毎年、面接練習をしてほしいと依頼を受け、受験校に対する生徒たちの意識や思いを確かめる機会をもらっています。その時に必ず尋ねるのが「志望動機」です。

「なぜ本校を受験しようと思ったのですか。」
「それであれば、〇〇高校でも同じことが学べますが、なぜ本校である理由は何ですか。」

こんな意地悪な質問はないとは思いますが、その生徒の意識や思いの強さを確かめるために私は尋ねることにしています。

「高校を知る」ということには、パンフレットの読み込み、積極的な見学や体験、意欲的な情報収集が必要です。与えられることを期待していたり世間の評判だけで判断したりしては最適な進路選択とは言えませんからね。（六月八日 記）